

既調合目地材

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和４年版 11 章 2 節に規定する既調合目地材とし、主として外装用を対象とする。

2. 品質・性能等

- （１）品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- （２）主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- （３）性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

評価内容（別紙）

既調合目地材

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考
材 料	セ メ ン ト [表示項目]	[申請者の規定による。]	
	砂 [表示項目]	[申請者の規定による。]	
	混 和 剤 [表示項目]	[申請者の規定による。]	
	単位容積質量 (kg/ℓ) [表示項目]	[申請者の規定による。] (全国タイル業協会 1.80 以上)	
性 能	保 水 率 (%)	30 以上	
	長さ変化率 (%)	0.2 以下 (収縮)	
	吸 水 量 (g)	50 以下	
試 験 方 法	1. 試験の条件 試験室は、温度 20±2℃、湿度 65±5%RH の標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、あらかじめ 24 時間以上標準状態に置いた後使用する。		
	2. 試料の調整 正味質量と標準練り上がり量より、1.0 ～ 1.20 の試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201 の「11.2 試験用機械器具」に規定する練り混ぜ機を使用し、練りはちに用意した水を入れ、攪拌しながら 30 秒間に材料を投入し 3 分間練り混ぜて試料とする。		
	3. 単位容積質量 2. で練り混ぜた試料を、JIS A 1171 の「6.4 単位容積質量試験」に規定する方法で求める。		
	4. 保水性（ろ紙法） JIS R 3202 に規定する磨き板ガラス（縦 200 mm、横 200 mm、厚さ 5 mm）上に JIS P 3801 に規定する 5 A ろ紙（直径 18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型のわく（内径 50 mm、高さ 10 mm、厚さ 3 mm）を設置し、「2. 試料の調整」で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10 分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり（最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さ）をノギスを用いて 1 mm まで測定する。 試験は 3 回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。		
	$\text{保水率（\%）} = \frac{50}{\text{平均値}} \times 100$ 注）50：リング形わくの内径（mm）		
	5. 長さ変化率 2. で調整した試料を用いて JIS A 1171 の「7.8 長さ変化率試験」に従って行う。		
	6. 吸水量 2. で調整した試料を用いて JIS A 1404 の「7.5 吸水試験」に規定する方法で 24 時間の吸水量を求める。試験体は 3 個とし、その平均値で示す。		